

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 103-8210  
 住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号  
 氏 名 花王株式会社  
 代表取締役 社長執行役員 長谷部 佳宏 印  
 (代理人)川崎工場 工場長 小松 利照  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	花王株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区浮島町1番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	衣料用・台所用合成洗剤、住居用洗剤、柔軟仕上げ剤、シャンプー、リンス 及びボディークリーム等の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	17,204	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の環境への取組については、ホームページに公表しています。 <a href="http://www.kao.com/jp/corp/eco/">http://www.kao.com/jp/corp/eco/</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

#### (1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

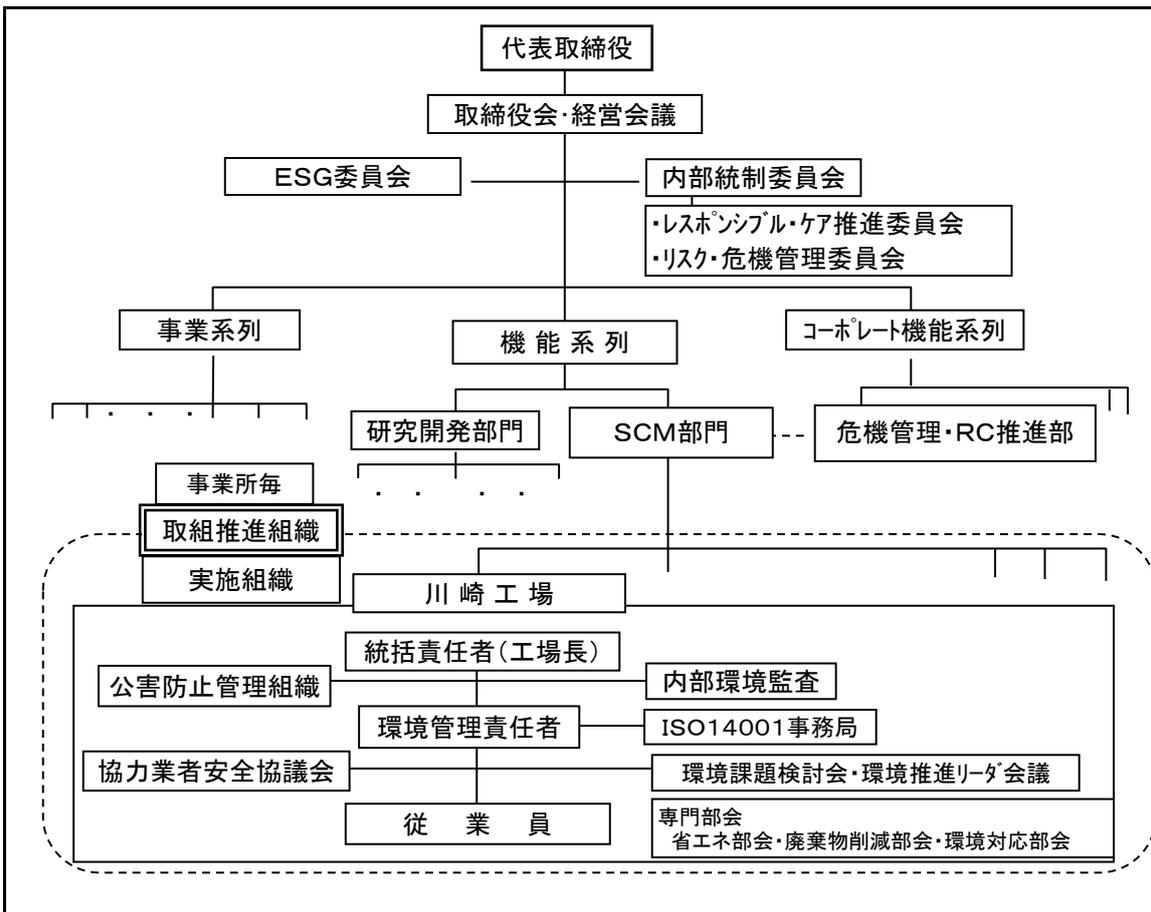
花王グループ環境方針  
(使命)  
私たちは、消費者・顧客の立場にたって、心を込めた”よきモノづくり”を行ない、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティ（持続可能性）に貢献することを使命とします。この使命のもと、私たちは全員の熱意と力を合わせ、清潔で美しくすこやかな暮らしに役立つ商品と、産業界の発展に寄与する工業用製品の分野において、消費者・顧客と共に感動を分かち合う価値ある商品とブランドを提供します。

(方針)  
～中略～  
3. 気候変動の緩和に貢献するため、温室効果ガスの排出削減と、水を含む資源・エネルギーの効率的かつ持続的な使用などを推進し、また気候変動への適応に努めます。  
～後略～

#### (2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（P D C Aサイクル）を行うための方針

花王グループ環境方針  
(方針)  
～中略～  
5. 環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全と汚染予防に努め、環境パフォーマンスの向上を図ります。  
～後略～  
「KADEMS-6.2.1\_目標・計画策定規程」より抜粋、一部編集  
①上記の方針によりS C M部門で定めた省エネ・温室効果ガス排出量削減目標に基づき、各部門が目標、年間計画を策定する。その内容と進捗状況は適宜環境課題検討会で確認・共有する。  
②各部門は、年間計画の実施項目の進捗管理とエネルギー使用量・温室効果ガス排出量の実績管理を行う。運転、設備保全上の課題を適宜整理し、必要に応じて計画の見直しや変更を行う。

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準	年度	2021				年度
目標	年度	2024				年度
基準	排出量	(実)	33,176	(実)		
		(調)	26,204 t-CO <sub>2</sub>	(調)	t-CO <sub>2</sub>	
目標	排出量	(実)	36,030	(実)		
		(調)	28,340 t-CO <sub>2</sub>	(調)	t-CO <sub>2</sub>	
削減量		(実)	-2,854 t-CO <sub>2</sub>	(実)	t-CO <sub>2</sub>	
内訳	対策実施による削減量	(実)	-3,360 t-CO <sub>2</sub>	(実)	t-CO <sub>2</sub>	
	上記以外の削減量	(実)	506 t-CO <sub>2</sub>	(実)	t-CO <sub>2</sub>	
削減率		(実)	-8.6 %	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量		生産数量			
原単位の単位		t-CO <sub>2</sub> /ton			
基準年度の値		0.06449			
目標年度の値		0.06159			
削減率		4.5 %		%	

ウ 目標設定に関する説明

<p>目標年度の生産量は、基準年度の生産実績に比べて、13.7%の増加を見込んでいます。それに伴い、温室効果ガスの排出量も、10.3%増加を見込んでいます。</p> <p>温室効果ガスの排出量原単位の削減を図るため、排出量原単位の値を年平均で1%以上削減することを前提に目標を設定しました。省エネルギー設備の導入については、基準年度から下記の積極的な活動を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コージェネレーション設備の総合効率改善による都市ガス削減（排出削減量368 t-CO<sub>2</sub>）</li> <li>○コンプレッサーの更新による空気原単位の改善（排出削減量152 t-CO<sub>2</sub>）</li> <li>高効率機器及びインバーター機の導入により高圧、低圧系統分離と台数制御の最適化</li> <li>○防爆エリア照明146台のLED化（排出削減量15 t-CO<sub>2</sub>）</li> <li>○スチームトラップ簡易保温設置による放熱ロス削減（排出削減量3 t-CO<sub>2</sub>）</li> <li>○コ・ジェネ設備のエネルギーサービスによる買電電力の再エネ化（検討中）</li> </ul>
--

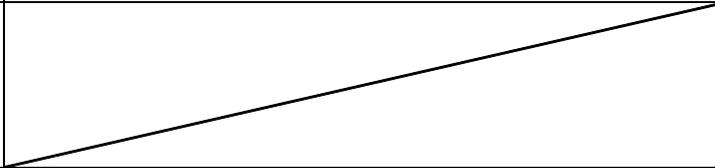
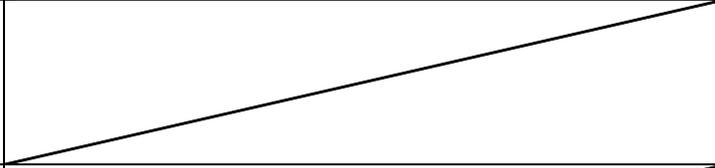
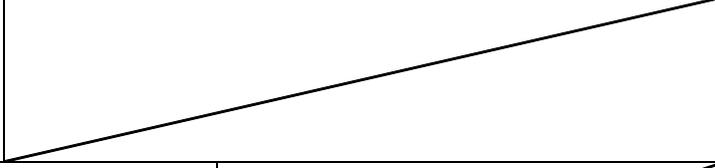
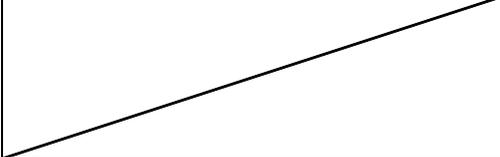
(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

<p>花王グループの全拠点におけるエネルギー使用量は、毎年1%削減を目標に設定し、2013年より継続しています。</p> <p>全拠点の温室効果ガス排出量（スコープ1+2）は、SBT1.5°C目標に準じた、-55%（絶対量：2017年比）であり、製品ライフサイクル温室効果ガス排出量（スコープ1+2+3）の目標は、SBT2°C目標に準じた-22%（絶対量：2017年比）です。いずれもSBT イニシアチブにより承認されています。</p> <p>また、2021年6月にRE100に加盟し、花王グループ全拠点の電力を2025年に購入電力100%、2030年に使用電力（購入電力+自家発電電力）100%を再生可能由来に移行する目標を設定しました。</p> <p>加えて、花王グループの製品、サービスの提供により社会全体で10,000千トン-CO<sub>2</sub>の削減貢献をめざします。（花王サステナビリティレポート2022 99ページ 脱炭素 中長期目標と実績より引用）</p>
--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

<p>計画</p>	<p>○エネルギー使用量等の把握 各部門の毎月のエネルギー使用量を把握・分析を行ない、原油換算量及びCO<sub>2</sub>排出量毎の原単位をまとめ、定期報告を行う。</p> <p>○ボイラー空気比の適正化 小型貫流ボイラー設備(7基)の最適な燃焼を維持するため、定期点検において、空気比の適正化を行う。</p> <p>○ヒートポンプの導入 標準的な熱源設備よりも高効率なヒートポンプの導入を検討し、工場内空調機器更新の際採用すると共に、生産設備での温水・冷水を製造する設備への導入検討を行う。</p> <p>○コージェネレーション設備の保全管理と運用最適化 ガス圧縮機、ガスタービン、排熱ボイラー、脱硝装置等の定期的な保守管理および運用見直しによる総合効率改善を図り、都市ガス削減を行う。</p> <p>○コンプレッサーの更新による空気原単位の改善 老朽化更新に合わせ、高効率機器及びインバーター機の導入と高圧、低圧系統分離による台数制御の最適化により電力削減を行う。</p> <p>○工場防爆型照明のLED化により照明に更新し、メンテナンスの効率化及び消費電力の削減を行う。(146台)</p> <p>○スチームトラップ簡易保温設置による放熱ロス削減</p> <p>○コ・ジェネ設備の老朽化更新に合わせ、エネルギーサービス化による再生可能エネルギー証書適用を行う。</p> <p>○都市ガスのCO<sub>2</sub>排出係数は、2021年度までの報告書では代表組成から理論計算された係数「0.01386」を適用していたが、本計画書からは、A3シート記載の「0.0136」を適用する。</p>
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<p>○コージェネレーションシステムの導入 都市ガスを用いるコージェネレーションを下記に導入し、生産した蒸気、電力を自家消費する。</p>		
・2号機 : 発電容量 6,450 kW 排熱ボイラー 13.2 t/h	平成11年2月 稼働	
・3号機 : 発電容量 6,230 kW 排熱ボイラー 11.0 t/h	平成16年2月 稼働	
<p>○乾燥塔設備の大型送排風機への回転数制御装置の導入 送風機 150 kW 2台 排風機 500 kW 2台</p>		
	平成14年度に完了	
<p>○インバーター式蛍光灯安定器への切替え実施 設置台数 2,758 灯 取替え台数 2,077灯</p>		
	平成21年度75%達成	
<p>○プロセス設備より廃熱利用による吸収式冷凍機の導入</p>		
	平成21年度2月稼働	
<p>○各建屋の非常口誘導灯へのLED及び陰極冷熱式誘導灯の導入</p>		
	平成21年度100%達成	
<p>○空気圧縮機の台数制御装置の導入</p>		
	平成23年3月稼働	
<p>○新型の小型貫流ボイラー更新 (2.5t/h×4基=10t/h)</p>		
	平成24年3月稼働	
<p>○蒸気ドレン廃熱回収水のボイラー給水へ直接利用化</p>		
	平成25年8月稼働	
<p>○工場水銀灯、ナトリウム灯のLEDへ更新</p>		
	平成25年、26年度完了	
<p>○冷凍機の高効率ターボ冷凍機の導入</p>		
	平成26年8月稼働	
<p>○工場内、自動倉庫、事務所の蛍光灯をLEDへ更新</p>		
	平成30年稼働(100%完了)	
<p>○コンプレッサーインバーター機315kW導入</p>		
	平成31年稼働	
<p>○高効率ノンフロンターボ冷凍機(500RT)の導入</p>		
	令和3年度稼働	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	太陽光発電配置検討済(354kWh)、第2自動倉庫屋上へ設置実施(2021年度)
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他( )	×	
その他( )	×	

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電	第2自動倉庫屋上2,660m <sup>2</sup> 、発電出力354kW	2021年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他(コ・ジェネ設備ESP化)	△
EV、PHV、FCV	×	その他( )	×

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	自然エネルギー発電（バイオマス発電）による非化石証書取得 CO2削減量：7.0千t-CO2/年
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	①買電電力の非化石証書取得を継続する。 ②コ・ジェネ設備の老朽化更新に伴い、ESP（エネルギーサービスプロバイダ）の運用化により、電力の再生可能エネルギー適用化を検討
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出量

(実)	33,176	t-CO <sub>2</sub>
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

17,204	KL
--------	----

ウ 事業所の数

1
---

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量
花王株式会社 川崎工場	川崎市川崎区浮島町1-2	33,176 t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>